

日本での交換留学

“La Sapienza” 大学
レベッカ・トッカチェーリ

コロナのせいで、世界中で生活が変わったことが約2年になりましたが、それでも日本に行くという夢と、この経験するために努力は全く衰えていませんでした。努力の結果、私は親友2人と一緒に東京のお茶の水女子大学に留学することになりました。残念ながら、Covidのせいで日本に行けなくて、この前期に授業をオンラインで受けなければなりませんでした。

日本語で積極的に話すことに慣れていなかったのも、最初の授業はとても難しく、自分を表現して理解してもらうように適切な言葉を見つけなくて、恥ずかしい感じがありました。しかし、だんだん手軽で普通になって、恥ずかしいと思う瞬間もそんな怖くなくなりました。

最初から、非常に親切で忍耐強い様々な教師と、世界の様々な地域から来た、それぞれに異なる話を持つクラスメートたちと、とても仲良くなりました。授業では、意見や経験を交換する機会になり、これがこの経験の最高の点だと思います。人間的にも学問的にも、非常に役に立つ経験だったと思います。日本語能力を強く向上させて、日本の多くの文化的側面を分かっているようになって、日本社会での関わり方やグループでよく協力することを学ぶことができました。

残念ながら、東京のタイムゾーンを利用してオンラインで授業を受けることは簡単ではありませんでした。朝早く起きることや、宿題の締め切りのためにいつも時間をチェックしなければならないことなどが、私の経験を損ねている部分もありました。もし日本に行く可能があったら、まったく違う経験になっていたと思います。早く東京を生で見て、コンピュータの画面を使わずに、日本の本当の雰囲気を感じられるようになりたいと心から思っています。

最後に、私と一緒にこの経験を共有したすべての人に感謝したいと思います。特に、私の指導教官の小谷先生には、毎月の振り返りシートをいつも読んでくださって、励ましの言葉をかけていただいて、感謝しています。また、萩原先生と松田先生には、大変な忍耐力と、この経験の初めに私に色々なことを英語に翻訳してくださった手伝い、そして授業内外での絶え間ない励ましとサポートに感謝したいと思います。最後になりましたが、この冒険に同行し、短い時間でも、それぞれの国の文化や習慣に触れさせてくれたクラスメートの皆さんに感謝したいと思います。